NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

総　会　報　告

記念館で 5 月 21 日（土）に総会が開かれました。

最初に松村高夫理事長から挨拶があり、その後「議長、記録、議事録署名人」を選出し議事に入りました。最初に宮本司書からこの 1 年間の経過報告(別紙)がありました。

昨年度は会報 34 号でお知らせした通り、11 月 21 日にウェスタ川越で「15 周年集会」を開くことができました。遠く倉敷や長野からも駆けつけ 130 人余りがご参加下さり、『東京新聞』埼玉版や『赤旗』が大きく報じてくれました。

昨年はコロナで理事会や講演会、学習会も思うように開くことができませんでしたが、記念館は一時期を除き平常通り開館し来館戴きました。最近は来館者や中帰連・記念館をご存じの方から広がり「友人から聞いた」などが多くなり有難く思います。

宮本司書から会計報告の後、星野監事からの「会計監査報告」が承認（同封）されました。お陰様でこの 15 年間、一切の公的支援を受けず全国の皆様の「会費とカンパ」のみに支えられ運営出来たことに、心から御礼と感謝申し上げます。記念館は理事 15 人と監事 2 人の 17 人体制で運営しておりますが、人事の変更はありませんでした。

検討事項に入り在中国でリモート参加の石田理事から「記念館所蔵資料の電子化事業」について提案があり、進めることになりました。具体的な事は今後「理事会」に提案、報告しながら進めていくことになりました。

山本理事からは戦争体験者の聴取りは既に不可能であり、中帰連や戦争に関心を持つ会員や理事などへの聴取り作業を進め、音や映像として記録する提案が承認され、具体化していくことになりました。

目　　次

・総会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
・「伊東、鷲山両氏」来館 ・・・・・・・・・・2
・「杉並平和委員会」来館 ・・・・・・・・・・2
・横浜から 32 人来館 ・・・・・・・・・・・・・2
・「日中友好協会所沢支部」来館 ・・・・3
・「観藤会」報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・3
・連載「資料室から」第 28 回 ・・・・・・3
・「桧山さんの油絵」③ ・・・・・・・・・・・・5
・管理所来館「記念樹」　・・・・・・・・・・5
・「一枚の写真」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・5
・アウシュビッツ平和資料館で
「中村哲 活動写真展」 ・・5
・寄贈された本から　・・・・・・・・・・・・・6
・お知らせ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
・記念館蔵書から　・・・・・・・・・・・・・・・6
・橋本勝さんの「諷刺マンガ」」 ・・・・6

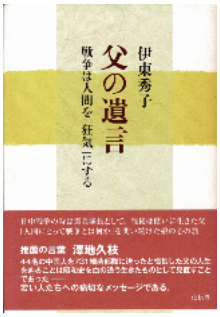
会員の皆様には原則「賛助会員」でお願いしていますが、総会に出席ご希望の方は「正会員届」を出すことで、何方でも総会に参加できます。

伊東、鷲山両氏来館

連休谷間の 5 月 2 日に、札幌市在住の伊東秀子さん（元衆院議員、弁護士）と、静岡県掛川市在住の鷲山恭彦さん（元、東京学芸大学学長）がご一緒に来館下さいました。

お二人とも記念館会員で伊東さんの父親・上坪鉄一氏は中帰連で、戦時中中国で憲兵隊長をしており 731 部隊に「マルタ」を送っていました。

伊東さんは 2010 年の私たちの訪中に、お兄さんとお姉さんと同行しました。撫順戦犯管理所で父親の展示を見て愕然とし、帰国後、その経緯を『父の遺言』として出版されました。



（花伝社）

また、掛川市の鷲山さんは松本亀治郎の研究や広報活動をされています。

（松本亀次郎）

亀次郎は東京神田に「東亜高等予備学校」を設立し、魯迅や周恩来など中国人留学生を当時支援しました。

（伊東さんと鷲山さん）

周恩来が日本へ留学せず、また亀次郎との出会いがなかったら、「中帰連」のこの歴史は無かったかもしれません。掛川市には中国天津市から周恩来の等身大の蝋人形が寄贈されています。

来館当日は松村高夫理事長（慶応大学名誉教授）、細川清和理事、宮本直子司書、芹沢昇雄理事長と面談し、今後の記念館の事などを話し合いました。

「杉並平和委員会」来館

4 月 2 日（土）都内の「杉並平和委員会」の皆さん 15 人がマイクロバスで来館下さいました。

説明を真剣に聴いて下さり、その後「中帰連」の映像を観て頂きました。記念館の後、車で 30 分ほどの「丸木美術館」へ向かいました。

横浜から32名が来館

「かながわ歴史教育を考える市民の会」と「信愛塾」の皆さん 32 名が、大型バスで 4 月 9 日（土)、「丸木美術館」を尋ねた後に来館下さいました。「始めて知った」という皆さんが半分以上で感謝です。

皆様からカンパも戴き有り難う御座いました。

「日中友好協会・所沢支部」の皆さん

4 月 13 日「日中友好協会・所沢支部」の皆さん 6 人が来館下さり、その内のお二人は再来館でした。

「観 藤 会」報 告

千葉県匝瑳市の妙福寺境内に、中帰連千葉支部が建立した『中帰連碑』（謝罪碑）があります。

この碑はまだ「受け継ぐ会」も「記念館」も発足していない頃に、千葉支部が「何とか自分たちの体験と思いを後世に伝えたい」と、寺の檀家総代をしていた中帰連の篠塚良雄さん（元 731 部隊少年隊員）が中心になり建立しました。

毎年境内の「藤の花」が咲く頃の 5 月 5 日に『観藤会』と称し有志が集い、中帰連の皆さんを偲び思いを新たにする場にしています。

今年を含めコロナで 3 年間連続中止になりましたが、今年は東京、千葉、埼玉から有志 8 人が集いました。

境内には篠塚良雄さんのお墓もあり参拝させて頂きました。当日は篠塚さんの娘さんもご参加下さいました。

連載　記念館資料室から
第28回　「平和遺産」としての中帰連資料

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局）

記念館には、戦争や歴史に関する書籍のほか、中帰連会員の皆さんが遺された資料類も多数収蔵されています。帰国後に平和へのどんな取り組みをされたのか、どのような思いで過ごしてこられたのかを知る上で、大変貴重なものです。ただ、未整理のものも多く、活用できないままでした。そこで、まず全体像を把握するための初歩的な資料調査を1月に行いました。今後、この「平和遺産」を皆さんと共有していける

よう、取り組んでいければと願っています。

資料を確認するなかで、興味深いものも発見できました。今回は本部会報『前へ前へ』の紹介は一休みして、それらを御紹介したいと思います。

(1) 新聞記事

多くの会員の方の新聞スクラップ帳が見つかりました。その中で、1956年に帰国した時期の新聞を集中して保管されていたのが、稲葉績さん（埼玉）、小島隆男さん（埼玉）でした。70年近く前の記事ですからもう日焼けして破れている箇所もあります。個々人の帰還が当時の日本でどのように紹介されていたのかを、写真も含めて確認することができます。地方版の記事は検索しても出てこないものがありますので、大変貴重です。

（2）写真アルバム

個人活動や組織活動の記録を映した写真は、中帰連の歩みを分かりやすく伝えてくれます。たくさんのアルバムがありますが、藤田茂さん（初代会長）のアルバムは白黒の60年代頃のものからあり、圧巻です。熊谷清さん（北海道）が自筆の「反省絵画」を紹介しながら学校を回って講演されている写真もあります。中国を訪問した際の写真も多く、大河原孝一（北海道）さんと綿貫好男さん（埼玉）の訪中アルバムには、中国で出迎えた管理所の先生方も映っています。1984年に中国の先生方を招いた際に作成された広島支部のアルバムには、多くの会員の様子が掲載されています。

（3）書簡

管理所の元職員との交流が始まった1980年代以降は、呉浩然先生、金源先生、崔仁傑先生からの手紙を受け取った会員も少なくありません。多くはありませんが、山中盛之助さん（埼玉）や国友俊太郎さん（東京）などが大切に保管されていました。中国の先生方の思いに触れることは、今の私たちにも多くのことを感じさせてくれます。

（4）日記・エッセイ

帰国後の日々に日記や反省記録、エッセイなどを書き続けた会員も少なくありません。国友さんは自身の経験を若い世代に向けて多数書き残しています。金子安次さん（東京）もそうですが、ワープロで入力されたものも少なくありません。土屋芳雄さん（山形）は、撫順での反省を深める内省録や帰国後の平和活動について多くの資料を残しています。絵鳩毅さん（神奈川）は戦争前から書き始めた日記を帰国後も晩年まで書き続け、膨大な分量になっています。

（5）裁判記録

戦後補償裁判が始まった1990年代以降、法廷で証言に立つ会員も少なくありませんでした。出廷の準備のための資料や証言原稿なども多数残されています。731部隊関連訴訟で証言された三尾豊さん（東京）や篠塚良雄さん（千葉）の資料からは、裁判所や被害者のまなざしを知ることもできます。湯浅謙さん（東京）は山西残留者と共に取り組んだ補償要求の請願・裁判記録を残しています。強制労働訴訟に参加された小島隆男さんの記録もあります。

資料調査にあたって御尽力頂きました芹沢昇雄さん、宮本直子さん、今井雅巳さんに心から感謝致します。

「桧山さんの油絵」③

（中帰連福岡支部、元美術教師）

『炎 の な か で』

「白陽寺の焼き討ちから帰ってきた下士官が『炎の中であの老婆は何とつぶやいただろな？』と話していました。それも判らない日本兵だったのだ。」

（湖北省当陽県白陽寺村 1943 年 12 月）

管理所「来館記念樹」

2012 年 4 月に撫順戦犯管理所の張所長一行が来館下さり、記念館前の狭い小さな小さな庭に、植えて戴いた「記念樹」（春いちばん）が満開です

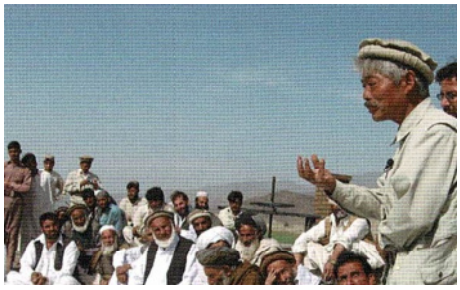
一 枚 の 写 真

中帰連の帰国第一陣（3 回に分けて帰国）は 1956 年 6 月、「天津・塘沽港」から管理所職員の皆様に見送られ、「興安丸」に乗り舞鶴を目指出港しました。

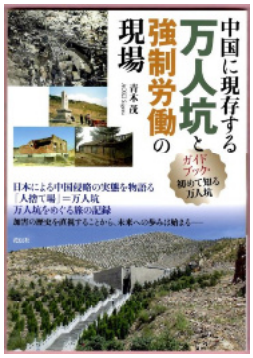
この帰国に際し彼らは中国政府から新しい「靴、毛布、服」と現金 50 元（お土産をを買った）までもらい帰国しました。

アウシュビッツ平和博物館で「中村哲 活動写真展」

日程：2022年4月2日（土）～6月27日（月）
場所：アウシュビッツ平和資料館企画展室
（福島県白河市白坂三輪台245）
http://am-j.or.jp/　TEL：（0248-28-2108）
主催：認定NPOアウシュビッツ平和資料館
協力：「ペシャワール会」
休館日：（毎週火・水曜日）
入館料：一般500円、高校生300円
中学生以下無料



寄贈された本から



会員でもある愛知県在住の青木茂さんが中国各地の「万人坑」（人捨場）を訪ね、昨年『日中友好新聞』に月 2 回、1 年間の連載記事を纏めた本です。

中国人の日本への強制連行は,38000 人余りで、その犠牲者は 6830 人（外務省報告書）。しかし中国国内でも「石炭、鉱石、小麦、綿花・・・」などの略奪に 4000 万人もが強制連行され 1000 万人が犠牲になったと推定され、その「人捨て場」の現地調査記録です。

（青木茂・著、花伝社、発行 22.4.10、
A5 版、78 頁、¥800）

「松川事件、下山事件」と共に共産党弾圧の国鉄 3 事件の一つです。竹内景助は最高裁が 8 対 7 の一票差で無期から死刑へ追認され、無念の獄死をしました。

（石川逸子・著、梨の木舎、発行 22.3.20
B6 版 196 頁￥ 1200）

※　何れも希望者は記念館まで

お 知 ら せ

記念館ではネット利用者のために「メーリングリスト」（ＭＬ）を設定し、記念館からのお知らせや、会員相互の交流や情報交換の場を設定しています。参加ご希望の方は記念館までご連絡下さい。

『記 念 館 蔵 書』か ら

（著者：朝日新聞山形支局、発行::朝日新聞社、発売 85.7.10）

憲兵だった土屋芳雄さんは（中帰連福島支部）多くの中国市民を現地処分として殺害したが,反省し赦されて帰国、戦後、中国へ謝罪の旅をしました。

橋本勝さんの「風刺マンガ」

「敵基地」を「反撃」に変えれば
日本が守れる！？

『NPO 中帰連平和記念館』
〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
ＭＬ：npo-kinenkan@freeml.com
郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」
振込口座　：００１５０－６－３１５９１８
開館日：「水、土、日」（10:30 ～ 16:30）